

# 海報天下

鬼行列

神輿のお渡りに供奉し、悪疫退散と五穀豊穰を祈念する鬼行列は、三百有余年の伝統を今に守る、全国他に類を見ないものです。鬼町と呼ぶ四つの町で伝承し、二つの行列で編成しています。

一つは元禄年間に始まったと伝えられる役行者を中心とした「役行者列」、もう一つは寛政年間に始まったとされる鎮西八郎為朝を中心とした「鎮西八郎為朝列」です。桃山時代から江戸後期にかけて製作された、能面を始めとする面を被り練り歩く鬼行列は、観る人々を幽玄の世界に誘います。

役行者列

鬼町四町の内、上野相生町、上野紺屋町、上野三之西町で構成しています。かつて紺屋町には寿福院（現、松本院）と言う修験寺院があり、藩祖藤堂高虎の信仰も篤く、高虎が晩年眼を患った時、大峰山に眼病平癒祈願を行い、この返礼として能面「阿古父尉」を寄進されたと伝えられています。

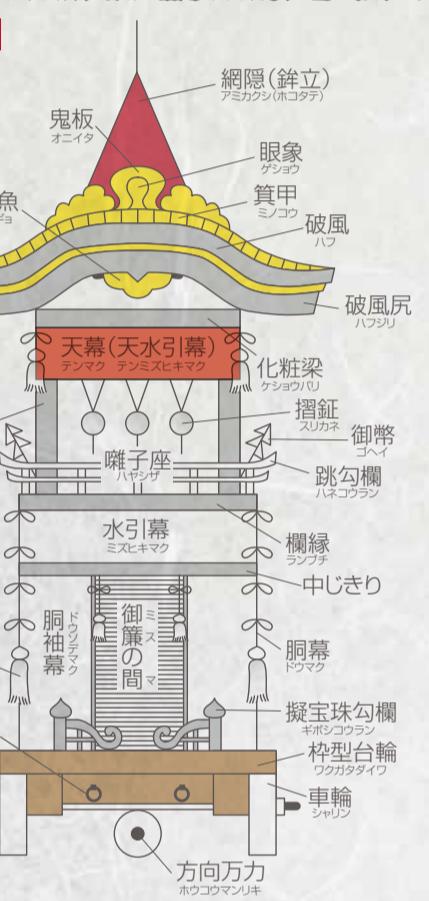


鎮西八郎為朝列

鬼町四町の内、上野徳居町が担う、鎮西八郎為朝(源為朝)を中心とした行列で、先頭より先達鬼、小鬼、脇立鬼、四天王と続き、これらを従えて為朝が登場します。藩主藤堂高虎の伊賀入部に従い伊賀に入った、為朝の子孫である系譜を持った安並氏と言う武士の考案により、源為朝の仮装を始めたという説があります。保元の乱の後、伊豆大島に流刑された為朝が、近くの鬼ヶ島に棲む鬼の頭領を成敗し、凱旋したという故事にちなんだものと伝えられています。為朝は身の丈七尺の大男。「五人引き」の強弓の名手と謳われ、弓矢を手に鬼行列の最後尾を飾り、威風堂々と町中を練り歩きます。



だんじり



上野天神祭

上野天神祭は400年余りの歴史を有し、関西三大祭りの一つに数えられています。平成29年より、祭りの開催曜日が変更され、「25日までの直近の日曜日」となりました。今年は10月18日(金)・19日(土)・20日(日)の開催です。神幸祭(本祭り)の20日は終日、神輿・鬼行列・だんじりが行列を組み上野の街を巡行します。

この天神祭は国の重要無形民俗文化財に指定され、平成28年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。

上野天神祭 公式サイト  
<http://www.ueno-tenjin-matsuri.com/>  
(祭礼期間中、鬼・だんじりの現在位置を確認できます!)

